

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502835		
法人名	インターナショナル・ホスピタル・サービス(株)		
事業所名	グループホーム徳洲会		
	札幌市豊平区月寒東4条10丁目8番35号 (電話) 011-859-3351		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年7月28日

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 9.3人

## (2) 建物概要

建物構造	RC壁式構造 造り
	3階建ての 1～2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費2000円 暖房費10000円(11～3月)
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,052 円		

## (4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	5	要介護2	5
要介護3	5	要介護4	3
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82歳	最低 63歳	最高 94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌徳洲会病院、針谷歯科クリニック
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム徳洲会は、月寒川沿いの緑地が広がる、郊外の閑静な住宅地に位置する。3階建ての鉄筋コンクリート造りで、3階は一般高齢者向けのグループハウス、1,2階部分が2ユニットのグループホームになっている。全体にゆったりとしたスペースが確保され、余裕のある間取り設計となっている。医療法人が母体の運営であり、医療との連携が緊密で、利用者・家族の信頼を支えている。書類やシステムなどもよく整備された管理態勢のもと、職員の教育も行き届き、チームワークと信頼関係が築かれている。外出も職員の配置を巧みに調整しながら利用者一人ひとりの希望に添って頻繁に行っている。利用者は認知症を感じさせない、穏やかな表情でホームでの生活を楽しんでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の取り組み課題には、ユニット独自の理念作成、地域とのかかわり、運営推進会議の定着、外部への意見・苦情相談窓口明示、同業者との交流組織の創設、重度化・終末期に向けた方針の検討などが挙げられていたが、いずれも真摯に取り組み、多くは改善の実を挙げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が参加して討議しながら評価を作り上げ、最後に管理者がまとめあげた。一部理解の未消化な部分を残しながらも、自己評価によって日ごろの業務の見直し、新たな気づきが得られ、活動に活用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開催されており、ホームの活動状況、利用者の生活状況、自己・外部評価、災害対策などについて討議されている。会議で認知症や施設に関する勉強会を行ったところ関心が高まり、討議も活発に行われるようになり、地域とのつながりが深まるきっかけとなった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置し、外部に表せる機会の紹介を行っている。系列の病院が毎年当ホームを含めた施設機関利用者全員に対して無記名のアンケート調査を行っており、いくつかの意見が寄せられる。意見や要望に対しては直ちに職員間で実情と対応策を討議し、申し出者に対して謝罪や報告を行っている。重要なものは台帳に記録して保管している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して会議にも参加しているが、会の行事や活動が少なく、利用者と地域住民との交流の場としては十分機能していない。運営推進会議の勉強会やホームの行事に一般住民も招いて好評を得ている。近隣の幼稚園児、保育園児が来訪して慰問してくれるほか、地域の老人大学が見学に来訪することもある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生き方を尊重し、快適な生活と信頼関係を作ると共に、地域との交流を深めることを内容とした、両ユニット共通の理念に加えて、各ユニット独自の簡便な理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は施設内の見えやすいところに掲示されている。ユニットごとの理念は申し送りの際には唱和して周知を図っている。業務の中で必要に応じて確認している。	○	両ユニット共通の理念については、やや長いこともあって意識的に取り上げられることが少ないようだが、内容に問題があれば改定するなどして、実際の運営に反映されるような取り組みを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して会議にも参加しているが、会の行事や活動が少なく、利用者と地域住民との交流の場としては十分に機能していない。運営推進会議の勉強会やホームの行事に一般住民も招いて好評を得ている。近隣の幼稚園児、保育園児が来訪して慰問してくれる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が参加して討議しながら評価を作り上げ、最後に管理者がまとめあげた。一部理解の未消化な部分を残しながらも、評価によって日ごろの業務の見直し、新たな気づきが得られ、活動に活用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開催されており、ホームの活動状況、利用者の生活状況、自己・外部評価、災害対策などについて討議されている。会議で認知症や施設に関する勉強会を行ったところ関心が高まり、討議も活発に行われるようになった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは業務上の報告、手続きなどのほかにも頻繁に接触し、研修の情報を求めたり、各種のアドバイスを受けたりするような関係を作り、よく連携ができています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便り「陽だまり」を発行してホームの生活の情報、職員の異動などを報告するのと合わせて、金銭出納のコピーを送付している。利用者の受診結果、ヒヤリハット事例についてはその都度家族に報告し、外食については事前了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年無記名のアンケート調査を行っており、いくつかの意見が寄せられる。意見や要望に対しては直ちに職員間で実情と対応策を討議し、申し出者に対して謝罪や報告を行っている。重要なものは台帳に記録して保管している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動は教育上必要なもので避けられないが、年間一人までに限っている。離職は少ない。異動、離職、新入に際しては利用者に説明し紹介して、理解を得ている。新入職員には旧職員が付き添って利用者との馴染み形成に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間およその計画を立てながら職員に教育の機会を与えている。系列病院での研修が年に2,3回あるほか、外部研修の機会には適宜交代で参加している。年間一人当たり平均2,3回、受講している。外部研修参加者による報告会の形で内部研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者レベルでは豊平区の管理者会議、ケア連絡会に参加して同業者との交流を図っているが一般職員レベルでの交流は少ない。区内の同業者間で一般職員も含めた交流の組織を作る話が進行中である。	○	同業者自身による交流の組織をなるべく早く結成にこぎつけるよう、期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立っては自宅や病院などの滞在先を訪問し、あるいは来訪してもらって十分納得した上で入居となるよう、努めている。入居後は暫定の介護計画に基づいて徐々に馴染めるよう工夫している。当初は職員が頻繁に声かけをし、時には一時帰宅で安心を得るようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食材の下ごしらえ、配膳・下膳、洗い物、縫い物、編み物、毛筆によるメニュー書き出し、畑仕事など、各自の希望や能力に応じて参加してもらっている。職員は、利用者から戦争や若いときの体験、子育ての経験などの話を聞いて、多くを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でアセスメントする中で、できるだけ多くのことを把握するように努めている。家族から得る生活歴などからも多くの情報を得ている。一人ひとりを注意深く観察することで意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居の当初、介護計画作成者は本人の得意だったことを取り入れ、また医療的な情報も入れた暫定計画書を作り、家族の同意を得て実行に移している。職員はケアをする中での課題など、1ヶ月後にカンファレンスで情報交換をし、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、ユニット会議でケア目標の成果をモニタリングし、本人、家族の満足度を測っている。また3ヶ月ごとの見直しでは、継続の場合も家族の意向を聞き計画書を渡している。状態が変わった場合には、その都度見直し、新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人病院との医療連携体制があり、往診医、訪問看護師との連携で病状の変化に即、対応が可能である。本人や家族の事情に応じて受診の送迎など、柔軟に対応しており、少しの体調変化にも受診し病気への悪化を防ぐように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の意向に沿って支援している。定期的な受診には職員が付き添っているが、月2回の受診には家族の同行をお願いし、情報を提供する中で主治医との連携をとっている。重度化した利用者には、主治医の訪問診療が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関わる指針」「看取りケアに関する指針」が文章化されており、入居時にホームの方針を説明し、同意を得ている。現在、看取りケアが行われており、その都度、家族、主治医話と話し合い、職員は看取りマニュアルに沿って支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを損ねるような命令的な口調に注意し、排泄の誘導や清拭などには他者に見られないようにプライバシーに配慮している。個人情報の書類等は適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出など、利用者の希望に沿って可能な限り支援をしている。業務の事情次第では即、応えられないこともあるが、そんな時には利用者の理解度に合わせて良く説明し、一人ひとりの思いを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の食べたい物を取り入れている。職員は調理の下ごしらえやお茶入れなど、簡単な作業をお願いし、食事中は話題を提供し、食事を楽しむ雰囲気づくりを大切に共に過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴ができる態勢になっている。夜間入浴は希望者がいないので現在は行っていない。重度化した場合も安全な入浴ができるように2階のユニットにリフト浴槽がついており、数名の利用者が使用している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意な面や興味を引き出す工夫をしており、習字の得意な人に毎日のメニューを書いてもらうなど、暮らしの中に活かしている。また、一人ひとりの好みを計画しているが（カラオケ・野球観戦・外食・水族館・日帰り温泉等）、その日には職員を増やし個人の気晴らしに対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周囲の散歩や買い物を楽しみ、戸外の風景や催し物を見にドライブに出かけるなど、個人の楽しみを柔軟に支えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出る気配に注意し、職員と一緒に出かけるようにして日中は玄関の鍵をかけない取り組みをしている。夜間に居室の鍵をかける利用者もいるが、室内の見守りは出来るようにして、安全に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「消防訓練マニュアル」があり、消防署との連携で避難訓練を実施し、写真も入れた分かりやすい記録をとっている。訓練の中で課題を見つけ、安全確認のため自主的な訓練を行っている。今後は地域の協力を得るため、次回の運営推進会議に働きかける予定である。	○	町内会に協力を依頼すると同時に近隣にも働きかけることを期待したい。また、夜間の災害も想定した避難訓練の実施を期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は個人別の「生活リズム・パターンシート」表に水分量・食事量を記録し、利用者の状態を把握している。その人に合わせた食事の形態を工夫し、偏食がある場合は家族と話し合い栄養バランスに配慮している。	○	管理者が必要なカロリーを把握し、バランスのとれた食事を提供しているが、管理栄養士の専門的なチェックが得られるような工夫も期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりしていて、居間の広い窓から風景を見渡せる居心地のよい造りになっている。廊下幅や4か所のトイレや洗面所は広く、車いすでの移動が容易である。季節感を意識して日本の季節行事に合わせたものを飾るようにしている。壁には利用者の作品や手作りのカレンダーが程よく飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で馴染んだ椅子に座り読書したり、編み物をしたりなど、使い慣れた家具や好みのものを持ち込み、その人らしい工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。